



森のなかま

2023年 4月号

NO. 178 (継続323号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

< 森林癒やし部会主催 >

「やどりき水源林 森林癒やし体験研修会」

日時：2023年2月18日（土）9時～15時

場所：やどりき水源林

講師：山下剛史⑪ 湯浅鉄男⑪ 宮下修一⑩ 笠原かずみ⑭ 若林良子⑦

参加者：草野⑧ 吉田⑪ 石垣⑮ 大森⑯ 野口⑰ 鈴木強⑰ 鈴木秀⑰ 小俣⑰

(記、写真 若林 良子⑦)

天候に恵まれた当日。久しぶりに行う森林癒やし部会の研修会は初めての方が多く参加されました。

研修はやどりき水源林に到着してからイベント開催後やどりき水源林を退場するまでを想定して、ゲートの開け方、イベント中のゲート状態、各施設の鍵置き場、管理棟の扱い方なども説明。初心者にありがちな『何をしたいのかわからない』を少しでも減らせるように説明するように心がけました。



まずは森林癒やし体験の概要を研修会資料を基に説明。森林癒やし体験の基本の考え方を学んでもらいました。

つぎに、使う道具の設置準備。保管場所から現地に運ぶところも研修です。一気にワイワイガヤガヤとみんなで協力しながら準備となりました。ハンモックの設置、マットの設置など各ポイントで注意事項の説明をします。準備中、これまでの活動であった出来事や経験したこと、安全ポイントなどを話すと次から次と話が広がっていき、午前中のプログラムが終了しました。

昼食の後は参加者が実際に一連のプログラムを体験しながらの研修となります。班ごとに分かれ各講師がコースを連れて体験します。体験する内容は森林安息、呼吸法、樹冠の揺らぎ、木伝導、ハンモックです。講師によっても個性があり、話し方、話す内容、声がけの仕方や導入の仕方などを学んでいただけだと思います。体験の中で水の中の音を聴く『木伝導』が初めてでとてもよかったとの声が多く、「新しいこと発見する体験を自分もガイドとして参加者様へ伝えることができるようになりたい」といった意見も聞いて研修を開催してよかったと感じました。





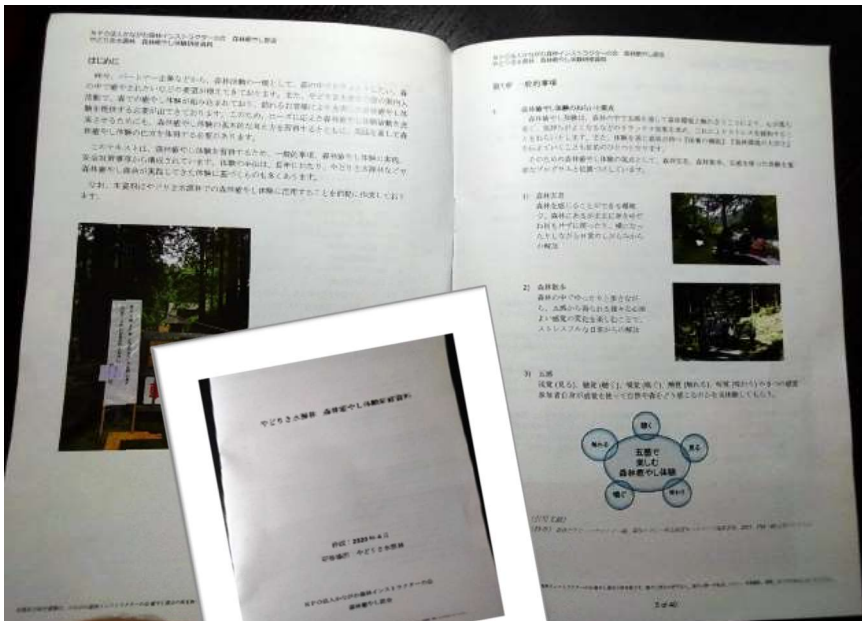
森林癒やし体験コースから戻られてきたところで「味覚」の体験。ハーブティーの試飲です。

今回は『杉ヒノキと緑茶の合わせ茶』と『黒文字茶』を用意しました。

杉ヒノキ茶は飲みやすく冷やしてもおいしいそうなお茶です。山北のお茶屋さんで購入しました。黒文字茶は色が独特で少しオレンジがかったいます。香りが立ち、少しスパイシーに感じる方もいらっしゃいます。好みがわかるように気に入った方はおかわりを何回もされていました。このスパイシーさを利用してスープにして

みる試みも。市販のコンソメを少しお茶に混ぜてみるとスープに変身しました。味も悪くなかったようです。

お茶会で談笑し和気あいあいとした時間を過ごしたあと道具を片付け（言わずもがな、これも研修の一環です）とふりかえりをし研修会を終了しました。



研修に使用した やどりき水源林 森林癒やし体験研修資料 は部会員の意見やこれまでの活動や体験で得られた実践的な内容をいれたものです。（表紙含み 40 頁）

コロナの影響でお披露目することができず、作成にかかわった方々はやきもきさせてしまいました。

かなり広範囲にわたる内容でそれにかかわる資料の精査も大変でした。ですが、やどりき水源林で森林癒やし体験を実施するにあたり活用できる実践的なテキストとなりました。

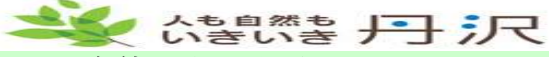


かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目／NPO法人で初めて委嘱されています。

かながわしずくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。



https://twitter.com/kanagawa_sizuku



丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会のホームページをご覧ください。<http://www.tanzawasaisei.jp/>

第 14 回 森林文化講演会

演題: 森林環境教育はなぜ必要なのか ～森林を知り体験することの重要性を考える～

講師: 杉浦克明氏

日時 令和 5 年 2 月 11 日 14 時～

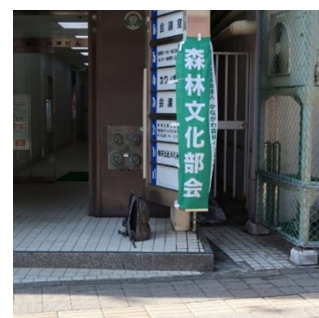
参加者 50 名

(写真、記 菊地 昭子①)

第14回森林文化講演会が2023年2月11日14時～ 藤沢駅前の第一相澤ビルで行われました。講師は日本大学森林資源科の杉浦克明氏です。

演題: 森林環境教育はなぜ必要なのか ～森林を知り体験すること重要性を考える～

参加の人数を多く募集することが出来たので久しぶりに旗も立てる事にしました。初めに知識の共有ということで、質問 4 択の中から 1 つ選び手を挙げました。地球の森林面積は？ 森林面積の減った国は？ 森林面積の高い国は？ 日本の森林は人工林と天然林の割合は？ と授業のような感じでした。次に丸太の価格の移り変わりや SDGs に続いて FSC、グリーンマーク、間伐材マーク、エコマークと説明が続きます。



				
SDGs 2030 年までに全世界で達成を目指す国際的な目標。	FSC: 持続可能な森林活用・保全、管理を認証する国際的な制度です	グリーンマーク: 古紙を利用した紙製品につけられるマーク	間伐材マーク: 間伐材を用いた製品を表示するマーク	エコマーク: 生産から廃棄の中で環境保全に役立つと認められた商品

休憩を挟み後半は、小学校の学習指導要領に森林教育がどんどん減っている事。人間は、個々の動物や植物などの対象物に興味向きやすく森林は空間としてとられているので関心が向きにくい事。トビリシの5項目の気づき、知識、態度、技能、参加に結び付けて指導に当たるといい事。現代の子供の現状は、情報による間接体験による知識はあるが、実体験が少ないので自然体験は意識的に行なう必要があり「触覚」「嗅覚」「味覚」「視覚」「聴覚」の五感を重視した原体験が生きる力を育てる事などを講演されました。久しぶりの対面での講演会で参加人数を心配しましたが50人参加を頂き若い杉浦氏の熱い話で終了することができました。ご協力、ご参加いただきありがとうございます。



講師 杉浦氏

「やどりき周辺 自然観察 ～春待つやどりきの里へ」

場所:寄バス停～宮地山～ロウバイ園～寄バス停 日時:2023年1月21日(土) 晴れ
参加者16名、インストラクター； L水口⑨、波多野⑨、杉崎⑩、松本⑪、上宮田⑪、古舘⑬、
國弘⑭、野村⑭、河西⑮、飛田⑮、久次米⑯、佃⑯、内田⑰、雨宮⑰、高谷⑰、藤田⑰

< 記；佃 理恵⑯、写真；参加メンバーより >

当日は大寒の翌日でもあり、かなり冷え込みましたが、皆さんと観察談笑しながらのハイキングはポカポカと身体も心もあたたまる活動参加となりました。その道中では、様々な春を告げる草木、景色、野鳥達の出会いはありました。

スタートは寄バス停からで、ロウバイ園のイベントもあり、駅近くのテントでは美味しそうなお弁当やお野菜等も販売されており、スタート前から見ているだけでワクワクしてきます。出発から数分で鳥達の歓迎の鳴き声が聞こえてきますが、なかなか姿が見えず先輩方々の豊富な経験から様々な野鳥の名前が飛び交います。道中では、メジロ、イソヒヨドリ、オオルリ、コゲラ、アオジなど16種ほどの野鳥達に出会う事ができました。途中、大寺橋の下でランチタイムでしたが、ジョウビタキが近くの木杭の上に止まり間近で観察することもできました。更に、その橋の下には、大きなキロスズメバチの巣やイワツバメの巣の跡まで見られ多くの発見がありました。植物では、アブラチャン、ミツマタ、トサミズキの花芽、マユミの冬芽、なぜか関西のヤマフジが見られたり、少し咲き始めのカワツザクラ、香り豊かなソシンロウバイ、マニアックなところでは、シキミハコブシから虫こぶについて盛り上がり『虫こぶハンドブック』を開き、こんなハンドブックがあるのかと皆さん興味深々でした。



ジョウビタキ



イワツバメの巣



マユミの冬芽

今回の活動は初参加でしたが、先輩インストラクターの振舞いは、豊富なご経験と知識はとても参考になりますし、観察の仕方や便利道具、

いかに参加者をもてなし楽しませるかというところでも、大変多く学びがありました。優しく丁寧な先輩方々のご指導に、また参加したい気持ちが湧いてくるのでした。



中にこんな幼虫が！

シキミハコブシ
(シキミの葉の虫こぶです)

森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

最近国内に生育する草木の香りが注目されています。地域に生育する樹木や芳香植物から採取された精油がアロマ製品として販売されるようになりました。「和の精油」とか「日本産精油」といった言葉も耳にするようになってきました。樹木ではスギ、ヒバ、ヒノキ、クロモジなどの精油が店頭に並んでいます。なかでも最近注目されているのがクロモジの精油です。

クロモジは和菓子のつま楊枝として使われています。樹皮のついたつま楊枝としておなじみです。クロモジはスギ林などに低木として枝を広げる広葉樹です。樹皮に黒い小さな斑紋があるのでクロモジの名がついたともいわれています。冬になると落葉しますが幹の黒い斑紋で他の雑木とは容易に区別できます。春先に新葉の芽生えに先立ち黄色の小さな花を枝一面につけ薄暗いスギなどの林に明るさをもたらします。秋には丸く小さな黒みがかかった実をつけます。

クロモジが密集して生えている林に入るとあまく軟らかな香りが漂いリラックスします。そのことはクロモジ精油の香りを嗅ぐと緊張した時の交感神経の働きの割合が減少し、くつろいだ時の副交感神経の働きの割合が増加することで確かめられています。クロモジの香りに含まれるリナロールという成分によるものです。



クロモジの開花

クロモジは漢名を烏樟(うしょう)と言い枝葉の煎汁には鎮静、鎮咳作用があり、脚気に効果があり、民間薬として皮膚病治療薬、神経痛の浴湯料に用いられてきました。

古くは鷹狩の獲物の鳥を人へ贈るときや神への供物として供えるときにクロモジの枝が使われていました。五穀豊穡を願う餅花(繭玉とも)に使用したり、枝葉はサカキの代用としても用

第50回 クロモジの香りには薬効がある

東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

いていました。また、神社の社を造る時の用材を伐採するときにはクロモジで祭壇をつくり供え物をしたともいわれています。そんなことからクロモジは神の木として考えられていたようです。クロモジの枝は強く弾力性があるので雪の上を歩く時のかんじきや炭俵の両端を抑える口あて柴としても用いられていました。

クロモジの細枝を縦に並べて作る小柴垣は古風を重んじる庭園や茶室などに見られます。千利休が茶席の時に庭のクロモジの枝を削りとり楊枝として和菓子に添えて新鮮な香りで客をもてなしたとも言われています。樹皮のついた楊枝はその頃から使われていたのかもしれませんが。実はクロモジの香りは樹皮と木部の間に多いのです。

茶席では菊炭という断面が菊の花のようにきれいに割れ目の入った炭が好んで使われますが、クヌギの製炭で作られるのが最上品となっています。実は千利休が茶炭はクヌギで作るのが良いといったことから今でもクヌギが茶炭には最上品として利用されているようです。クヌギ以外の木ではクヌギのようにきれいな菊の花の形の割れ目は作りにくいのです。千利休は今に残る和の文化の創造者でもあったようです。

リラックスに効果のあるクロモジの香り、その香りを1滴でも細孔のある小石にでも滴下し、玄関先にでも置いておけば客人を楽しませてくれることでしょう。クロモジの香りにはリラックス作用だけでなく抗菌作用もあります。そして抗菌作用は気体での作用が強いことも知られています。最近ではインフルエンザウイルスにも効果があることや白血病細胞の増殖を抑えることも研究の結果から分かっています。

いま、人気のあるクロモジ精油ですが、実は精油採取は明治時代から地域的に行われ、特に伊豆地方のクロモジ精油は石鹼香料などに使われ、輸出もされていたのです。

(写真 湯河原白銀林道付近 2013. 撮影 松本 保①)

活動短信

今回の掲載はR4年11月27日からR5年1月20日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

4月(卯月)(旧暦3月弥生)の 二十四節気と雑節

二十四節気 :清明 4/5 穀雨 4/20

雑節 :社日(3/21)他の雑節に比べ、あまりなじみがありませんが、春分に最も近い戊(つちのえ)の日だそうです。春は種まきのころです。田んぼではまさに種もみ播きをします。田んぼ内での作業も始まります。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日付(できれば時間と天気も)

場所(例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参加者 人数

例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、看護士

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

インストラクター① (○数字:期) 研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 神奈川県森林協会 林道ウォーク

令和4年11月27日(金) 9:00~15:30 晴

21世紀の森 駐車場 - 内山林道 - セントラル広場

57名(大人56名 子供1名)

森林再生課 中井様、南様、笹木様、長井様、小向様

森林協会 西口専務理事、岡田様、藤澤様

L上宮田⑩、小野⑦、杉崎⑩、西岡⑭

秋晴れの日の中、森林協会の西口専務理事の司会により、森林館前の駐車場でオリエンテーリングを行い、森林館の裏の紅葉を楽しんだ後、21世紀の森内の内山林道(約3.5km、標高差220m)をゆっくりと登っていく林道ウォークを行いました。参加者を4班に分け、県森林再生課の方(主に林道、森林整備、成長の森事業、治山等の説明を担当)と森林インストラクタ(主に自然観察を担当)の計2名で各班を担当しました。

スコリア(噴火による噴出物。暗黒色)の土砂流出の跡を見たり、水路工や間伐施工地の説明を聞き、秋の終わりの紅葉や、ガマズミ、マユミ、カラスザンショウなどが実



をつけた様子、スギやヒノキの葉や実などを見たり触ったりにおいをかいだりして観察しながら歩きました。途中、成長の森に寄り、成長の森の植栽した場所を見、無花粉スギ、無花粉ヒノキ、および少花粉スギ、少花粉ヒノキについての説明を受けました。途中の展望台では富士山や大野山、丹沢の山々を眺め、昼食後セントラル広場まで歩きました。セントラル広場からはマイクロバスで森林館前に戻り、森林館で県森林再生課の方の展示物についての説明を受け終了となりました。

質問も多く、和気あいあいとした雰囲気の中、喜んでいただける観察会となりました。

(記 西岡 一郎 ⑭、写真:杉崎 恒三⑩)

◆ 日揮グループ 水源林保全活動

令和4年12月3日(土) 9:00~15:00 曇のち晴

やどりき水源林

15名(大人12名 子供3名)

L 菊池①、若林⑦

晩秋のやどりき水源林で森林散策とクリスマスリースづくりを行いました。

朝、曇りがちな空とキーンとした冷たい空気に包まれたやどりき水源林。このまま日差しがないと一日を通してかなり寒い中での活動になると心配しながら皆さんの来場を待っていました。しばらくするとお客様が到着。来場された方からは『寒い』という言葉が聞こえたので、まずは体を温めるためリースに使う材料拾いを兼ねての森林散策からスタートです。

材料拾いも兼ねているため誰かが使えそうな落ち葉やヒノキの球果を見つけると、散策の足も止まりがち。(笑)止まりがちに散策をしていると急に日差しがさしてきて、黄色や赤に色づいた紅葉を見事に照らし出してくれました。きれいな色付きと日差しの温かさに喜びながら午前中の散策を終えました。

昼食後、午後からはクリスマスリースの作成です。

今回、数種類の針葉樹の枝を用意し、リースにアクセ

トをつけてみました。種類によっては『和風』になったりボリューム感がでたりとバラエティーに富んだリースができました。



ベースが完成すると次は飾りつけです。散策の時に集めた材料は個々の個性がでるアイテム。リボンの付け方や流木などを思い思いにつけていきます。ほかの方のアレンジや材料の付け方を真似したり、皆さん和気あいあいとリースづくりをされていました。作業中、温かい飲み物とお菓子の提供もありほっこりとした時間をすごしながらリースを完成させました。最後は全員で品評会。みなさん納得のいくものが作れたようで、愛着あるリースが作れたようです。(記、写真 若林 良子⑦)

◆ 第 16 回 県民参加の森づくり 箱根町「植栽」

日 令和 4 年 12 月 7 日(木) 7:50~16:30

場 箱根町仙石原(町有林)

参 大人 70 名

財 豊丸課長、藤本様

看 佃様

スタッフ 箱根町 3 名、小田原市森林組合 2 名

イ L 上宮田⑪、斎藤⑧、篠原⑨、高橋⑨、西岡⑭、江上⑬、三浦⑰、松石⑬、鈴木⑭、小俣⑰、野村⑭、牧石⑭、小野⑮、末原⑮、大友⑯、高谷⑰

箱根町仙石原の浄水センター広場に全員集合、早川沿いに町有林植栽地に向けて約 40 分の軽いハイキング。早川沿いにマユミの赤い実、明るい道脇にはつるりんどうの赤い実が可愛らしい。空は晴れ渡り、現場に着くころには少し汗ばんできました。参加者 70 名、5 班に分かれ、唐鍬を手に緩やかな作業道を班毎にスギ間伐した植栽地に向かいました。

イロハモミジ、ヒメシャラ、ヤマボウシ、ホオノキ、ブナ、ミツマタ計 800 本が今回の植栽木です。支柱は山



側、ひもは八の字、安全目標は「足元注意」と統括リーダーの説明、さらに植栽方法のお手本を見てから各自が作業を行いました。予定より少し遅れましたが 12 時 30 分、すべての苗木を植えることができました。

植えたモミジが大きくなるのを見に来たい。手順を間違えたりしたが無事終え楽しかったなどの声がありました。この後、温泉に浸り帰途につきました。

(記 江上 徹⑬ 写真 上宮田 幸恵⑪)

◆ 富士通 Japan 株式会社 神奈川支社 間伐活動

日 令和 4 年 12 月 10 日(土) 10:00~13:00 晴

場 塚原ボランティアフィールド

参 大人 14 名、子供 2 名

県 環境農政局 緑政部 水源環境保全課

水源の森林推進グループ 村田様、佐藤様、村松様

イ L 牧石⑭、上田⑩、松本⑩

富士通 Japan 株式会社 神奈川支社の秋季森林保全活動(間伐)が塚原ボランティアフィールドで開催された。

事務局齊藤様より挨拶後、開会式がスタート、宇井支店長様、県担当者村松様の挨拶、インストラクター紹介、準備体操を行い参加者 16 名が 3 班に別れ、用具倉庫に移動し用具の搬出を行った。用具を装着後、間



伐場所「平成20年植樹林」へ移動。10:40～「森林保全活動の必要性」「間伐手順」「注意事項」を説明したのち間伐活動開始。

間伐場所は、込み入った状態のため適切な方法で掛かり木処理を行い、1班:1本、2班:1本、3班:3本計5本の間伐を行なった。間伐材でコースターや孫の手を作成し12:20間伐活動を終了、用具倉庫前に移動、用具を整備、倉庫に用具返却後、富士通 Japan 株式会社



の看板前に移動し記念撮影が行われた。

参加された皆様より、「ヒノキの香りが心地良い」「鋸の使い

方が難しい」「疲れた」と感想がありました。宇井支店長様より「かながわ水源の森林づくり活動に力を入れていきたい」と閉会の挨拶をいただき無事終了しました。

(記、写真 牧石 稔⑭)

◆ 横浜市立中川小学校

環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～

「水の中の生き物ウォッチング」

日 令和4年12月19日(月) 12:30～15:30 晴

場 中川小学校(横浜市/学校林)

参 5年生40名、教師1名

イ L井出①、足立④、内野⑨、國弘⑭、石垣⑮

(目的) 落ち葉の下などの土の中には、普段目にする事のない土壌生物が生息している。これら土壌生物を探し観察することで、土の中の生き物の存在と多様性に気付かせ、土壌生物の役わり、生き物のつながり“生態系”やSDGsとの関係について学ぶ。採取場所は校内の学校林。事前(下見時)に、落とし穴トラップを設置しておいた。

(実施内容)

1. 土の採取: 校庭内の落ち葉の多い場所で土を採取しトラップを回収。
2. 教室での抽出: 土を教室に持ち帰り、白いシートに広げ生物を抽出。
3. 同定: モニターに土壌生物を映し出し、見つけた生き物をワークシートにチェックを入れる。

ワークシートに記載された土壌生物は生息環境毎に点数化されており、見つかった生物の点数を集計することで、校庭の「自然の豊かさ」を知ることができた。(冬の時期で

生物が見つかるか心配したが、春～秋と同等の結果を得ることができた。)

4. 解説: パワーポイントを使い、土壌生物の役割り、生き物のつながりについて解説し、さらにSDGsと土の中の生き物の関係について解説した。

(最近は小学校でもSDGsについて学ぶ機会が多いようで、今回も子供たちからSDGsについて知りたいとの希望があった。)(記・写真 井出 恒夫 ①)



◆ 第17回 県民参加の森林づくり 竹林整備

主催: みどり財団 共催: (公財)川崎市公園緑地協会
後援: 川崎市

日 令和5年1月11日(水) 9:00～12:10 晴

場 栗木山王山特別緑地(川崎市麻生区)

参 39名(大人のみの参加)

財 藤本様、倉野様

看 佃様

スタッフ 神奈川県森林組合連合会 川崎市公園緑地協会
(浜田様・川瀬様・野牛様)

川崎市(鈴木様・鶴見様・飯田様)

イ L水野⑭、西岡⑭、小国⑰、鈴木⑧、小池⑰、

真貝⑮、森本⑰、小林⑱、⑳杉澤、㉑原田、㉒小野

令和4年度第17回の県民参加の森林づくりは、共催「(公財)川崎市公園緑地協会」、後援「川崎市」で同市麻生区「栗木山王山特別緑地」で開催されました。

【集合・開会】小田急線「栗平駅」に参加者が集合し、5班編成で緑地まで徒歩で約10分移動しました。到着後

はオリエンテーション

(挨拶、インストラクター紹介、作業内容の説明、準備運動等)を行い、班ごとに道具(ヘルメット、竹引きノコ)を装備しました。



【作業内容】今回の作業は斜面地の竹林整備（皆伐）のため、作業あたって各インストラクターが、「伐倒の際の退避確認」や「足場が悪いことから滑落注意」等の点を特に注意を払って参加者の安全確保に努めました。



【閉会・反省】作業後は道具の手入れを行い予定どおりに大きな事故もなく閉会式を行いました。インストラクターの反省会では一時的な道具の紛失等が報告され、私自身ももっと実力をつけなければと思いを新たにしました。 (記 杉澤 和将⑬)



◆ 横浜市立旭小学校

気になる木 大作戦!

日 令和5年1月17日(日) 10:40~12:10
 場 横浜市鶴見区 旭小学校・校庭
 参 39名(3年生児童35名 教師等4名)
 県 県水源環境保全課 武田様、他1名
 イ L石垣(15) 水上(13) 松浦(16)

昨年12月より「総合学習」の時間に『樹名板作製』に取り組んできた子供達が、直径20センチの丸太に絵を描き・木の実を飾り・ニス塗りで丹念に仕上げた作品を大切に抱えて校庭に集まりました。

今日は、いよいよ取り付け作業です。

3班に分かれクスノキ・イチョウ等11種・16枚の『樹名板』を手こいざ出発。

それぞれの樹皮に触れ、サルスベリには「うん、これは猿もすべるね!」と皆で納得。直径40センチを超えるスタジイでは、重たい板を支える人・ヒモを足して回す人・と全員協力しての作業となりました。取り付け終了後は、16本を見て回り



ながら各樹木の特徴・生育の仕方・葉の違いを感じました。

おわりの会では「どうやったら木を見分けられるようになるの?」「木を好きになるには?」「木を知ることができた」「取り付けた達成感があった!」等々たくさんの質問や意見が出て、校庭の木々に触れ、体感して身近に感じたことが伝わってくる時間となりました。

(記 写真 石垣 桃栄⑭)

◆ 相模原市立中野小学校

「特定外来生物の駆除」

日 令和5年1月19,20日(木、金) 10:00~12:30 晴
 場 中野小学校(相模原市/校内のプール)
 参 特別支援学級の1~6年生15名、教師5名
 イ L井出①、高橋③、堀江④、足立④、内野⑨

昨年12月、相模原市立中野小学校で、水生生物観察の環境教室を行ないました。ヤゴやマツモムシなどが見つかる一方、プールで数百匹レベルの多数のウシガエルのオタマジャクシが見つかりました。

ウシガエルは特定外来生物に指定されており、その被害を予防するために、入れない、捨てない、広げない、の3つの原則を守る必要があります。そこで学校の協力要請もあり、共同で駆除することになりました。

19日に、プールの水を抜く作業を行いましたが、オタマジャクシはすべて死んでいました。エサ不足?天敵のマツモムシによる捕食?共食い?原因は不明ですが、20日は、水位を低くしたプールで子どもたちも一緒に死体の回収を行ないました。

200匹ほどを回収する一方、ヤマアカガエルの成体も7匹見つかりました(内1対のオス・メスは包接中)。

今回は、死体回収という本来の見込みとは違う結果になりましたが、子供たちには特定外来生物の駆除という目的を詳しく解説し、作業を通して、生態系を守る大切さを感じ取ってもらえたのではないかと思います。



(記、写真 井出 恒夫①)

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

3 月からの森の案内人を始めました。今年からの新しいメンバーも加わり、案内人一同皆様の訪問をお待ちしています。

「水源林ニュース」

3 月号「早春の水源林へ」を発行しました。こちらからご覧ください

<http://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/news201.pdf>



やどりき水源林イベント紹介

認定 NPO 法人 かながわ森林インストラクターの会からのホットなご案内

森の案内人☆特別企画

桜三昧！最明寺史跡公園へ

富士の絶景ポイントを経て隠れた穴場の桃源郷へといざないます。

- ・開催日：令和5年4月8日(土)雨天中止(前日18時までにご連絡します)
- ・申込締切：4月1日(土) 定員：30名(先着順)
- ・参加費：¥1,000 大人のみ(当日徴収します) 高校生以下無料(保険代含む)
- ・集合：小田急線新松田駅(北口) 9時集合
- ・持物：昼食・飲み物・雨具
- ・服装：ハイキングの出来る服装・靴でご参加ください。

コース：小田急線新松田駅(北口)⇒西平畑公園⇒最明寺史跡公園
⇒昼食(折り返し)⇒西平畑公園⇒小田急線新松田駅 15時頃解散

●申込み先*認定NPO法人 かながわ森林インストラクターの会

E-mail:k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

●問合せ先*TEL：090-9334-6037(担当：上宮田 かみみやた)

参加者全員のお名前、住所、電話番号を記入の上、メールでお申し込みください。

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP 担当：大友 博道)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

<電子配信企業等パートナー向け担当>

黒川 敏史

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel：080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先：080-5477-2206

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小林 照夫

Mail: kobayashi@ts-pocket.jp

原稿は随時受け付けています。

●やどりき水源林問合せ:

(公財)かながわトラストみどり財団

TEL：045-412-2255

FAX：045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

(かながわ森林インストラクターの会)

ホームページ <http://www.forest-kanagawa.jp>

E-mail k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

編集後記

★孫のミニ(U12)バスケットボール県大会決勝(残念ながら2位)、その後の群馬県での関東大会の応援。

そして、野球のWBCの応援(TV、ラジオ)で私のハートも大谷君に負けない野球小僧に。

さらに、丹沢音楽祭の第九合唱団(趣味集団)へ兄が参加したので迫力十分のコンサート鑑賞(指揮者、演奏は超一流)。で様々な良い刺激でアドレナリンの分泌がよくなりました。

そのおかげか高め安定の血糖値が下がり(といっても高いですが)

少なくともボケの進行を鈍らせた気がします。ありがとうございます!!(松本)

★今年の東京の桜開花が、例年より九日も早かったですね。十年ほど前、千代田区のさくら祭りに関わっていた頃、やはり設定日より開花が早まり、往生したことを思い出しました。祭り本番には花吹雪すら終わっていて、屋台などのイベントは思いっきりズッコケ。間抜けなキャンペーンポスターが風にパタパタしていたなあ(泣)。自然相手のイベントは難しいし胃が痛いですね。(竹内)

★ひらめきを大切に

WBCで栗山 Japan の優勝は日本中に歓喜をもたらしました。監督の選手を信頼する組織作りには学びが多い。優勝すると思えば詰ると、ハット夢の中でひらめくことがある。朝になっても、夜中にひらめいたことが、はっきりと頭に残っていたから、それは本物だった。(小林)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。便振替口座 00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人：黒川 敏史

広報部：松本保 笠原かずみ 長尾晴子

竹内明彦 小林照夫 小国一男 小池宗子

支援：大原正志 吉田郁夫